

入門期の国語教科書における読点の実態

一、はじめに―読点とは―

読点：…文の内容を分かりやすくするため
に区切る点。「、」を用いる。
例私は大教大のオープンキャンパスに来ました。

二、教科書の読点に関する記述

赤枠内は、著作権保護の観点から加工しています。
実際は、左記の内容を提示しております。
『ひろがる言葉小学国語4下』教育出版、九八一九九頁。

- ①主語を表す「は」のあと
- ②言葉や意味の切れ目をはっきりさせたいところ
- ③文と文をつなぐ言葉のあと
- ④「ああ・おい・はい」など、感動やよびかけ、返事などを表す言葉のあと
- ⑤文の中に「」で囲んだ会話文を入れる場合には、その前で打つ

三、問題点・調査内容

問題点 ②の曖昧文を解消する以外に、読点を打つ、打たないの基準はないのか？
↓(用例が多い)助詞の後に打たれる読点の実態を調査した

四、調査対象―入門期の国語教科書―

①『こくご―上 かざぐるま』
②『ひろがるこくご―しょうがくこくご―上』
※①は光村図書、②は教育出版

五、調査結果(助詞の後にみえる読点の割合)

表1 教科書にみえる助詞の後にみえる読点の割合―①光村図書―

副助詞				格助詞				助詞の種類	
なんか	か	も	は	や	と	で	に	を	が
1	16	14	70	2	28	17	61	112	97
1	2	3	48	1	5	4	9	5	18
100	12.5	21.43	68.57	50	17.86	23.53	14.75	4.464	18.56

複数		接続助詞				助詞の種類	
には	で	と	たり	が	助詞	総出現数	
6	1	22	104	2	3	114	
5	1	21	35	1	2	44	
83.33	100	95.45	33.65	50	66.67	100	

表2 教科書にみえる助詞の後にみえる読点の割合―②教育出版―

副助詞				格助詞				助詞の種類	
か	は	や	と	から	で	に	を	が	
4	62	10	16	8	13	47	141	88	
2	58	2	8	2	3	10	3	24	
50	93.5	20	50	25	23.1	21.3	2.13	27.3	

複数		接続助詞				助詞の種類	
には	では	だけ	ので	と	て(て)	たり	けれど
2	2	1	3	5	93	4	1
2	2	1	3	5	30	1	1
100	100	100	100	100	32.3	25	100

以下、使用例の多い「は」「が」「を」の「に」の実態を取り上げる

- 読点が打たれていない例 (用例はすべて①光村図書より)
- 一、これは、きつさのくちばしです。(五〇頁)
 - 二、くまさんが、ふくろをみつめました。(三二頁)
 - 三、おはなしをくつたひとを、そのおはなしのさくしやといいます。(一一頁)
 - 四、なつやすみに、なにをしましたが。(百頁)
- 読点が打たれている例 (用例はすべて①光村図書より)
- 一、それからふたりはいつまでも、なかよくだのしくくらししたよ。(三三頁)
 - 二、あたたかいかげが、はじまじました。(三八頁)
 - 三、そして、きのうにむしをたべます。(五〇頁)
 - 四、うたにあわせておどります。(六九頁)
- 整理 「は」…主題(テーマ)
「が」…他動詞文主語(動作の主体)
「を」…直後に述語がない
「に」…直後に述語がない
- 仮説 「が」「を」「に」の分布から、助詞と述語とが隣接するが、読点を打つかどうかにかかわってくるのではないかと?

結論 上記の仮説は概ね妥当

六、考察―読点の実態―

□読点が打たれている助詞の特徴
(1)主語を表す場合(「は」)…二節①
(2)述語と隣接していない場合…二節②
(「が」「を」「に」)

▽①②の基準から外れる場合は、リズム調整等、特別な表現意図が認められる
▽文中の特別な表現意図を理解するためには、まず、文章理解の基礎として、右の特徴を踏まえた文章作成指導が求められる

七、おわりに―読点の意義―

従来の読点の意義
□分かりやすい適切な文を作成するため
※文章作成自体への関心に偏った解釈
稿者による読点の見方

読点とは、他者(読者)とのコミュニケーションを円滑にするための符号

読点をどこに打つのが適切かを考え、表現すること自体が、読んでもらう他者を意識した言語活動である

無味乾燥になりがちな文法指導が、「主体的・対話的で深い学び」に発展する可能性 新たな文法指導へ

参考文献 清田朗裕(二〇一九)「国語教科書における読点の実態―小学校第一学年を対象に―」『国語国文 研究と教育』五十七、三十五頁、熊本大学教育学部国文学会